



# 学校だより

11月号

横浜市立六つ川台小学校

令和4年10月31日

URL:<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/mutsukawada/>

E-mail: [ky-e-mutudai@city.yokohama.jp](mailto:ky-e-mutudai@city.yokohama.jp)

## つながる運動会

ふくこうちょう 副校長  
こやま まさし 小山 雅史

コロナ禍の運動会は、今年度で3回目となりました。昨年度は分散しての実施でしたので、全校児童が一堂に会しての運動会は2年ぶりとなります。団体演技、団体競技、徒競走と一人3種目ができたのも2年ぶりでした。

運動会に向けて、6年生は、どんな運動会にするか、どんなソーラン節にするか、目標を話し合っ決めていきました。練習を重ね、係の準備を進める中で、5・6年生とも自分たちが六つ川台小学校を引っ張っていくという気持ちをより一層高め、運動会を迎えました。「構え」の瞬間から気合いみなぎる演技は、さすが高学年でした。「歴史に残す」という気持ちも伝わってきました。中学年。4年生が中心となり、曲や演技の割り振り等自分たちで決めました。練習を互いに見合い、気付きを出し合っって完成度を高めていました。フラフープの動き、子どもたちの連動した動きは、互いに息をそろえたからこそできたものでした。低学年。初めての運動会でドキドキの1年生を、2年生が先輩としてリードしていました。ひらりと舞うスカートときらりとした笑顔に、一緒に運動することの楽しさが表れていました。

運動会を迎えるにあたり、教職員はどのような運動会にするかを考えてきました。子どもたちにどのような力を伸ばしていくのか。そしてそのためにどのような取組ができるのか。運動の得意不得意に関わらず、子どもたち一人ひとりの力が発揮される活動を目指してきました。あれもいい、これもいい、といろいろなことを取り入れていくと、運動会のボリュームは膨らみますが、やることをこなすだけに終始してしまうことになりかねません。子どもが学校で活動する時間も、教職員が携わる時間も限りがあります。子どもの学校生活の余裕がなくなる、教職員の業務が過重になる、そしてやることに追われて肝心なことを見失う、といった状況は避けたいのです。何を大切にするのか、しっかり焦点をあてていきたいと考えています。運動会に向けての取組の中で、気持ちが高まり重なっていく子どもたちの姿がありました。運動会後、達成感、充実感に満ちた子どもたちの表情がありました。互いに喜びを分かち合う運動会、互いにつながる運動会になったことを教職員も嬉しく感じています。

運動会は皆様とのつながりに支えられています。ソーラン節の法被は、自治会よりお借りしています。学校ボランティアの方には、支援に入ってくださいました。PTA本部の方には、受付や参加賞の準備などをしていただきました。改めて感謝申し上げます。持続可能な運動会、持続可能な学校の実現には、皆様の支援が必要です。また、いろいろな視点からのご意見もいただければと思います。引き続き、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。